

3班 魅力ある高等教育の振興

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
県内大学の魅力の発信					
高校等出張講座の充実(拡充)	県教委、市町教委等を介し中学へのお出張講座の実施を支援する	中学	中学時代から、高等教育を体験させその必要性を実感させる	教委	講座の受講回数をポイント化して学校評価に役立てる
	教育委員会が、高校だけでなく中学へのお出張講座をするよう促す	大学	合同説明会を高校生だけでなく、中学生にも対象を広げる	高校	進学するつもりでなくても、一度は説明を聞き大学を知る
	出張講座を実施する大学への支援	大学	色々な科の教授やゼミ生などに実施してもらい、高校生が自分で選択できるようにする		
出張講座の強化	できるだけ早く、中学生を対象にお出張講座をしてはどうか				
	大学の学部紹介等ではなく、将来の職業と関連付けて大学に行きたいと思ってもらえるように「職業」のお出張講座をする様々な職業(フェアトレード商品の販売店、リポーター、農家など)の人に講師となつていただき、生徒には興味のある職業に話を聞きに行くなど体験型の講座を開催 こういったことを中学で実施し、高校でお出張講座とする				
県内大学の魅力ある教育内容の発信	大学の特集などを組み魅力をお発信	大学	SNSなどを使い魅力をおPR		
	高校等へポスター等で発信 教育委員会には具体的に魅力ある教育内容等、検討していくべき	大学	2、3年生でも新鮮と感じる授業とする 説明会だけでなく、学校単位でオープンキャンパスに参加してもらう 大学に進学しない人にも、大学を知ってもらう		
	学生だけでなく一般県民に広く情報発信をすることで、学生等へ周知される可能性が高まる 祖父母から孫へ、知人から親へさらに子へ	個人	多くの人を知り、見聞きすることで、魅力をお具体的に理解でき、周辺の人にアピールすることができる		
		大学	オープンキャンパスの宣伝を各高校や中学でしっかりとやる		
高校生への情報の発信	場所を提供し県立大学へ講義を依頼	市町	場所の提供 周辺の中・高等学校への広報		
	学生及び保護者への高等教育に係わる情報発信 教育の質の保障、学びの場の提供	企業 大学	インターンの充実、合同説明会の増加や他県での開催 地域に貢献できる人材育成のため、大学と企業の連携は必須	保護者	子どもへの理解
		大学	大学側から、高校生等へ知る機会を増やし、ひとつでも学生の選択肢を増やせるよう情報発信を行う 学生の可能性も広がり、結果的に地域貢献や人材育成につながる		
大学機能の強化	県内の小・中・高等学校と大学の教育連携を推進していく上での媒介役	大学	受験生に対する情報発信 保護者に対する情報発信		
大学間や企業との連携	高校で実施している出張講座や企業の見学ツアーなどを大学を会場として行う	企業	見学プログラムや大学とのマッチング会に参加する		
大学を身近なものに感じさせる	大学にどんな学部があるのか、どんなことを学んでいるのかといった情報を中・高等学校へ発信する 学部や学びについて見直しも必要 高校等出張講座の拡大	大学生	大学新聞を作るなど、大学についてより知ってもらうための対策を検討する	中高生	自分の進路を考えながら、オープンキャンパスや体験会などに積極的に参加する

3班 魅力ある高等教育の振興

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
県立大学の在り方、地域からの認知	広報により、地域貢献等を周知する	地域	イベント等を開催した際に、大学生の積極的な参加を受け入れる	大学生	地域に求められていることを理解する
中学生のうちにアンケートをとる	各中学校に出張講座の時間をとる また、大学に行きたいのかといったアンケート調査をする	大学	大学から各中学校などに魅力を感じるパンフレットなどを配布する		
少子化に伴う大学への進学について説明会等の見直し	中学、高校などに働きかけ、説明会を実施していく	その他	市町でも、中学生から説明会・出張講座を設ける		
研究成果等の地域還元					
大学間や企業との連携の具体策	大学間、企業間そのマッチングを図るため、大学・企業の情報に、より敏感になるべき	大学	学生の要望を聞き、その結果により県や企業と関わっていく	企業	大学と連携が難しい場合は、県に仲介を担ってもらう等、相談をする。
		大学等	企業が求める人材育成 学部の見直しを含めて、時代に即した教育 インターンシップの見直し コンソーシアムの発展展開をしていく		
県内大学の研究成果の発信	「企業や自治体」と「大学」とのマッチング作業と「発信の場」の提供	市町 企業 NPO	県の窓口に対して「共同研究」内容のリクエストとマッチングの依頼	大学	インプットとアウトプットのバランスを保つ努力をする
	各大学の研究成果と県民生活への関係性を発信	企業	大学の研究成果の活用や、連携した製品開発に取り組む		
高等教育後の地域還元	学生等への支援金の制度を設け、支援期間の1.5倍県内で働けば無償といった制度とすれば、金銭的余裕が無いが優秀で大学進学をしたい方への支援となるし、地域にも戻ってきてもらえる				
アウトプットする場の提供	学生が学んだ内容、地域づくりに貢献した成果を発表する機会や場を設ける	大学	現場に足を運ぶ機会を増やす		
地域還元	愛校心を持てる研究成果を出す				
	県内ボランティアのアプリ作成	学生	市町、自治会への参加		
地域等が求める人材育成					
地域に貢献できる人材の育成	大学や県内自治体、県内企業との連携を図る上での総合窓口機能				
高等教育後の地域還元	東西どちらにも近い、新幹線の駅数が多い、街でもあり田舎でもある、住みやすいなど、静岡の魅力を若者に伝える	個人	県外に進学しても、就職する時に静岡に戻る流れに流されないで自分の意志で就職する	企業	静岡の企業の魅力をアピールしながら就職活動を行ってもらう
地域貢献できる人材育成は困難 魅力ある研究により、県外や外国からの学生から選ばれるカリキュラムが必要	成果指標には「件数」ではなく、依頼企業の満足度や達成度等の外部評価分析が重要	大学	企業との共同研究に真剣に取り組み、目標難易度の高い研究の成果を上げていけば、企業からも県外や外国の学生からも来静してくれるレベルになる		
地域が求めている人材が、地域へ還元できているか	地域企業の担当者から、どんな人材がほしいのか、どのように育成してほしいのかなど、ヒアリング調査を行う	大学	人材育成等の地域からの要望を、大学で精査し、学部に分け、専門的な知識を身につけた学生を地域へ送り出す		
県立大学の卒業生に静岡県に就職してもらおう	県内企業のPR(まずは知ること、知らせること) 静岡県のPR(生活・子育ての良さをPR) 静岡県が望む卒業生の輩出				
大学生の地域への貢献	企業・自治体への働きかけ	学生	企業や地域と関係を持ち、学部の特徴を活かし、企業・地域へ貢献していく 保育・看護・その他の部なども自治体と連携を図る		

3班 魅力ある高等教育の振興

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
学んだことを生かせる就職先の創出		企業	在学中に就職体験を受け入れる 実際に学んだことを活かせるか、仕事できるかなど 企業の必要としている働きができるかを知るチャン スを与える		
大学の質の向上					
教育の質をさらに高めるための施策 や成果の捉え方	大学の評価を第三者が実施 →評価軸の作成	大学	留学生から選ばれる大学を目指す 人口減少社会であることを踏まえ、学部学科を見 直す		
	主体は学生なので、学生への支援に徹すること	大学	アクティブラーニングを大学教授に取り入れるよう 推奨する	教授	学生の要望を聞き、それを反映した授業内容にする よう努める
	アウトプットの機会を大学に増やすように働きかけ、机の上で 終わらない、実践的な学びを提供する				
	学ぶ者の質の向上と人と協力				
	評価を厳しく管理するよう務める	市町	ニーズを把握するよう努める	国	文部科学省の考査
	各大学満足度の他県比較や、知識をアウトプットする機会を企 画・提供していく また、大学と地域・企業の連携、マッチングを図る	大学	満足度調査(より細かい項目で)を実施 知識のアウトプット	企業 地域	得たい知識を県へ要望する
		大学 地域	アウトプットする機会を増やす		
大学の教育の質の向上	学年が進むごとにカリキュラムの満足度が減っていることの 追加調査を実施し、カリキュラムの見直し、大学同士の交流を 促進 企業等と連携した体験活動などをもっと増やす				
大学の質を上げる	評価基準を明確にして、強みをアピールする				
県内大学の教育の質の向上を図る	大学教育の4年間で社会に通用、貢献していけるよう、その質 を向上することで、企業につなげる	企業	大学院卒の高度な知識や技術を持った人材を厚遇 する		
県立大学の評価基準	就職率の向上 学生の質向上、社会への貢献を評価	企業等	出身者の採用(ポストの確保)		
		大学	同窓会を作り、大学に貢献してくれる卒業生や地域 の方を増やす		
評価指標 現在は県による「自己評価」		企業 学生	企業や学生による評価を実施し、把握分析をする		
大学は、専門的なものや実践的なもの を深くかつ広く学べるべき	企業などの協力を得るための橋渡し役	市町 企業 NPO	ふじのくに地域・大学コンソーシアムにたくさんの企 業が参画すべき		
大学と企業	モノづくり静岡県として、理・工学部を充実させる 研究の達成度、満足度、専門教育に取り組む				
実学の推進	工業、農業、漁業などのことを学べる大学を増やす	大学	幅広い分野をまんべんなく学べる学部を設立する	市町	専門的なことを学べる場を設ける
研究機能の充実の必要性	県民のための仕事、必要性の研究 学部ではなく、学問の研究機能の充実	企業	クリエイティブを広くアピール		
県内外の優秀な高校生に受験(志望) してもらつ	魅力的(人気のある)な大学づくりのため、大学(学部)の偏差 値を上げる(偏差値と評価(人気)は同じ) 客観的で明確な数字目標として偏差値を活用				

3班 魅力ある高等教育の振興

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
学生の満足度の向上					
カリキュラム・授業の満足度の向上	県内の大学にどのような授業や、どのようなことを学ばせたいかのアンケート調査を実施	大学	額性等が授業に興味を持てるような情報を発信する		
学生の学びの場に対する満足度アップ	学生の大学に対する評価を具体的に調査し、改善点を取り入れ、学生が勉強しやすい場をつくるよう、大学を支援する	教授	学生が大学に何を求めているか、学生と話す場や機会を増やす	大学生	大学に対して、改善提案を発信したり先生方と話をしたりするなど、積極的に行動する
県立大学の成果	学生からの要望に耳を傾け、具体的な計画を立てる講座等の案内を認知されるよう努力する	企業等	大学と連携するなど、協力するよう津お止める指標を定め、満足度を得る		
学力だけでなく、特色あるカリキュラム		大学	医学英語やオールイングリッシュの医学授業、上位2割の4ヶ月程度の留学等、特色あるカリキュラムを採用している大学がある グローバル化を意識するなら、英語を強化し、スピーキングを改善できるようなプログラムを国際関係の学部以外でも取り入れる		
他学部の授業を受けたいが、単位のための授業があるためできない		大学	共通科目の単位として取れるようにする 転科をしやすくする		
企業と大学の連携等					
企業と大学の連携	大学と連携希望の企業を把握し支援する 成果を活用し、大学の宣伝や企業概要を学生に知ってもらうきっかけとする こういった連携が、大学の強み、企業の強みとなるような取組が必要ではないか				
		大学	専門性を持ち、日本、世界で活躍する人材育成のため、企業との共同研究をさらに進める 企業との信頼関係を築き、就職率を上げる		
県内企業の希望する人材のミスマッチ	企業と大学を結びつける	企業	希望する人材を大学に伝達	大学	希望される人材の育成
インターンシップの短さ 5日間のインターンだと基本的に1日目と5日目は説明で終了する	企業と話し合い、インターンの改善に取り組む	大学	企業と保険加入等の協議をする	企業	受入れ店舗の調整など
インターンシップの早期(1,2年時)の実施	早期実施することで、学生がその後の学びのモチベーションを上げる	大学 企業	早期実施することで、学生がその後の学びのモチベーションを上げる		
学生のインターンシップ		大学	早い段階から学生にインターンシップを勧める	企業	魅力を伝えるような仕事内容を学生に提供する
アクティブラーニング等の推進	インターンシップの受け入れ先を増やす	企業	大学3年生だけでなく、1,2年生も受け入れる	個人	早い段階からインターンシップに参加し、実社会の体験をする
	県と企業、大学とのコラボ	その他	大学へ紹介と斡旋	学生	生きていくこと、食べることの自覚
グローバル企業、人とはなんぞや		市町 個人	社会人となったとき、どれだけグローバル社会と付き合えるのか		

3班 魅力ある高等教育の振興

課題	県が何をする	誰が	何を	誰が	何を
その他					
就職・雇用へのつながり	企業がもっと大学と連携しやすくするような施策について、大学と話し合い、意見を取り入れる	大学	大学により就活支援に格差があるため、解消に取り組む	学生	多くの学生は、探していない、探しきれないため、友人と企業やインターンに関する情報共有を積極的に行う
	中学校で行う「職業調べ学習」のときに使用する、静岡県の企業の魅力がわかるDVDやパンフレットを作成				
		大学 企業	1、2年生からインターンシップを行う、受け入れる 安心して参加できるインターンシップ先を紹介する		
何を持って県立大学がうまく行っていると言えるのか	寄付をしたくなる大学 自治会活動への参加	大学	プロパー職員を増やし、県の関わりを減らす	その他	同窓会名簿の作成
	主体は学生なので、学生への支援に徹すること	学生 卒業生	県立大在学・卒という肩書を持って何かを達成する	県立 大学	教育以外の部分(部活等の表彰や地域との連携イベントなど)の充実
	県大卒業生や企業に寄付金をしてもらう	その他	できることから参加する		
		大学	地域の人に参加できる場をつくる →地域の人に親しまれる		
県内高等教育機関等の将来性を見据えての統廃合	高校や大学等の統廃合をしていく 学科や学部は将来性のあるもの、魅力あるもの、斬新なもの(世界で求められているアニメ部門など)を設ける				
教育の大学の偏差値	国家試験の合格率も大事 能力のポリシーを植える				
人に優しい社会づくり	道徳をもう一度学べる学部(先生は地域の人)の設置 大規模災害が予測されるため、自助公助の観点も含め、自分より他人や、向こう三軒両隣など、大学で地域の良さを学べる環境				
他県の大学にない特徴をアピール	どんな年齢でも入学できる環境整備 70歳現役時代、年齢に関係なく、生涯学ぶ環境づくり				
静岡を盛り上げる県民の意識		個人	行政任せにせず、地域同士で協力しながら、その地域を盛り上げていく		
地域に向けての教育	地域へ貢献する人材育成と方針にあるが、「地域とは?」ということが理解されていない 地域を知ったのち、人材育成方針を見直す 企業が行う地域貢献や、場所、歴史を改めて学生が知ることのできる授業とする また、地域におけるゴミ拾いなどに参加するだけでも街並みがわかると思う	学生	街並みを知る事業等に積極的に参加し、自分の街について、もっと知っていくことが大切だと考える		
地域振興の推進に関して	大学で学ぶための住居提供(公的機関の空き住宅利用)	市町	大学で学ぶための住居提供(公的機関の空き住宅利用)	個人	学生が学ぶだけでなく、生活に関しても応援相談にのれる人間的なつながりをつくる
「グローバル人材育成」のカテゴリにありながら、「地域貢献」は強引すぎ	大学の魅力度向上を図るため、優良企業の地元誘致を進めて就職先を準備していく	大学	卒業生と卒業後もコンタクトを取って大学の質向上に努める		
人材育成	各地域の観光教育	市町 企業 NPO	インバウンド向上、磨き上げる		
国際競争力の高い観光地域づくり	富士山静岡空港を利用した誘客促進				